

2020年度クリニックラウンWeb事業(2020年4月~2021年3月)

新型コロナウイルスの感染症予防のため、入院中の子どもたちは、プレイルームの閉鎖や、家族との面会制限、病棟内イベントの中止など、これまで以上のストレスや不安の中で過ごしています。また、自宅療養中の子どもたちは、免疫力の低下や感染時の重症化のリスクのため、自宅で孤立傾向にあります。「遊び」と「学び」の機会が制限され、感染予防のために、子ども同士が交流する機会が減少しています。

コロナ禍、病気や障がいを抱える子どもたちや家族がストレスフルな状況にある今だからこそ、当協会の趣旨である「子ども時間を届ける」ことが求められているのではないかとこの思いから、「今、私たちが出来ることは何か」を考え、2020年3月に「クリニックラウン Web 事業」を立ち上げ実施しています。

1. クリニックラウンweb訪問【病院・施設】

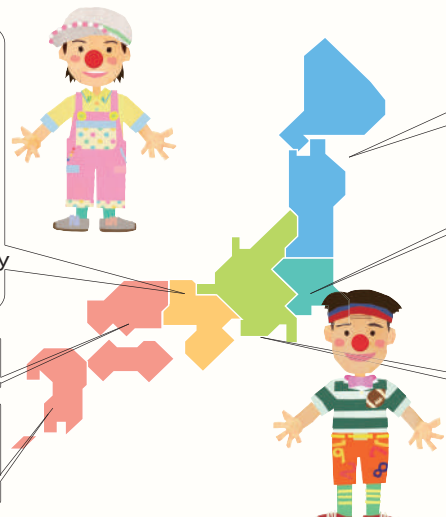
Web カメラのビデオ通話を使い、子どもとクリニックラウンが双方向リアルタイムコミュニケーションを行います。感染症の心配なく、Web を活用した「遊び」の機会を提供し、子どもの成長をサポートします。



<近畿> 3病院+5施設
 大阪市立総合医療センター
 大阪医科大学附属病院
 兵庫県立尼崎総合医療センター
 放課後ディサービス ノーサイド
 放課後児童ディサービス プリモ
 大阪赤十字病院附属大手前整肢学園
 児童発達支援・放課後等ディサービス MayMay
 チャイルド・ケモハウス(チャイチューブ)

<中国・四国> 0病院

<九州・沖縄> 2病院
 霧島市立医師会医療センター
 沖縄県立南部医療センター-子ども医療センター



<東北・北海道> 2病院
 札幌北楡病院
 東北大学病院

<関東> 3病院
 日本大学医学部附属板橋病院
 茨城県立子ども病院
 群馬県立小児医療センター

<中部・北陸> 3病院
 静岡県立子ども病院
 福井大学医学部附属病院
 富山大学附属病院

●病院スタッフの方からの感想



★職員が思うよりもずっと、子どもたちやご家族はWeb訪問をすんなり受け入れていると感じます。入院患者さんを対象とするイベントが開催できなくなっており、入院生活が単調になりがちなか中、Web訪問はよい刺激になっていると思います。クリニックラウンと会話をするお子さんを見て、ご家族が気づかなかったお子さんの社会性のような面を知り喜ばれています。



★子どもや両親が、日ごろ見せないとても素敵な笑顔で楽しんでいる姿を見ることができ、気分転換になっていると思います。

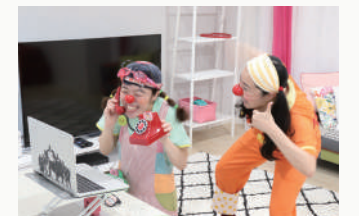
●施設スタッフの方からの感想



★子どもたちの視点の幅が広がり、今後の療育の参考になりました。
 ★私たちの関わりと違う関わりで、子どもたちの興味や笑顔を引き出してくださった。
 ★回を重ねる毎に、集中が増し、今ではパソコンの準備を始めると指を指して教えてくれる子どももでてきました。

●クリニックラウンの感想

コロナ禍で誕生した「Web 訪問」は、病院、施設のスタッフさんたち、そして一緒に遊んでくれた子どもたちと共に創り上げてきました！ Webの知識が全くない中、「直接いけないなら、バーチャルで訪問してみよう」そんな思いから始まった「Web 訪問」。直接いけない分、現場のスタッフさんたちの負担は多いはずなのに、皆さん「子どもたちのために」と思いを持って動いてくださっています。まさに、現場のスタッフさんたちとワンチームで取り組んでる「Web 訪問」！！これからもみんなで「子ども時間」を届けていきたいです！！【川島由衣(クリニックラウンネームキャシー)】



★子ども、家族とも共通の話題ができ、子どもや家族の普段見せない表情をみることができました。子どもたちもご家族もクリニックラウンに会えるのをとても楽しみにしており、画面越しでしたが、新しい楽しみ方を見つけ、たくさん笑顔の時間を過ごせたので、実施して良かったなと思っています。



★重度心身障がいをもつ子どものご家族がとても喜ばれていたのが印象的で、子どもが喜ぶことをしてあげたいと考えておられるご家族の気持ちに寄り添ったWeb訪問だったと思います。



2. クリクラウンとWebであそぼう【個人対象】

自宅や病院で療養している子どもたちやそのきょうだい、Webカメラをつかって クリクラウンとふれあうプログラム。その子に合わせた様々な遊びが展開していきます。

クリクラウンWebキッズ&ファミリー登録者数:15組
 実施期間:2020年6月~2021年3月
 募集:随時 当協会ホームページから申し込み可能
 対象者:入院中、自宅療養中など
 病気や障がいを抱える子どもとそのきょうだい
 対象年齢 3歳~18歳(目安として)
 費用:無料(通信に係る費用は各自負担)



●保護者の方からの感想

- ★コロナ禍で、親子共に自宅に引きこもっていたので、Webを使って遊べるのがありがたいです。久しぶりに大声でわらったり、本当に楽しい時間をいつもありがとうございます。
- ★Webを使ってこんなにも楽しく遊べるなんて思わなかった。子どもにとってもいい刺激にもなっていると思います。子どもは、クリクラウンのことが大好きです。
- ★はじめは少し戸惑っていた子どもが、回数を重ねるごとにクリクラウンとの関わりを楽しむようになってきて、親にとっても子どものいつもとは違う表情がみれたりする大切な時間になっています。
- ★子どもが入院している病院にはクリクラウンは来ていなかったので、自宅でつながることができてすごくうれしいです。クリクラウンと画面越しで関わるだけで、ふわーと明るい雰囲気になって、あらためて、入院中の子どもたちにとってクリクラウンは必要だと思いました。



●クリクラウンとWebであそぼうに参加してくださっている家族からのメッセージ

いつもクリクラウンさんたちの言葉や動きが面白くて、画面越しに笑ったり踊ったりして、20分があっという間に終わってしまいます。いつもたくさんハッピーをもらってばかりです。クリクラウンが楽しそうに踊ったり、笑っているだけで、こっちもとっても幸せな気持ちになっちゃうんだと家族で話していました。

「ママがただ楽しんでいる姿に元気をもらえた!」と言ってくれたクリクラウンさんがいて、そんなふうになんか言っただけでこちらもとってもうれしい気持ちになりました。こんな世の中で、こんなに大笑いしたり踊ったり、歌ったりできるってしあわせなことですね。本当にいつもありがとうございます。

子どもが入院しているときに病院にずっと寝泊まりを経験してきた私は、こんなことを思いました。よく私たちは、落ち着いたら〇〇へ行こう!とか、元気になったら〇〇しよう!とか、先を夢みて、今我慢して楽しみを先延ばしにしますよね。でも、院内の赤ちゃんや子どもたちは、今日、今、楽しまない、明日はわからないのだから、と思いました。子どもから、「今楽しむ、今、今だよ!」と教えてもらった気がします。だからどんなことでもなるべく思いっきり楽しみたいと思っています。入院中に、クリクラウンとすれ違うだけでもいいから出会いたかったです。クリクラウンの存在は、子どもたちにとって人生で忘れられない存在になっていると思います。たとえ号泣したとしても、笑わなかったとしても。もっともっといろいろな病院でクリクラウンのみなさんが輝けますよう応援してまーす!



Webキッズの母より

3. クリクラウンとみんなでWebであそぼう【個人対象(グループ)】

ZoomのWebカメラを使い、入院中や自宅療養中の子どもたち、そのきょうだい、そしてたくさんの子どもたちと一緒に、クリクラウンとWebで遊びます。

実施期間:2020年6月~2021年3月
 (月1回 計10回)
 実施時間:10時30分~11時30分(予定)
 参加費:無料(通信に係る費用は各自負担)
 子ども数:のべ82人



●保護者の方からの感想

- ★季節に応じて、毎回違う遊びなので楽しく参加させていただいています。子どもだけでなく大人もクリクラウンや子どもたちの自由な発想や行動に振り回されながらも、たのしませてもらいました。
- ★たくさんの家族がいる中で、一人ひとりの反応をしっかりキャッチして声掛けしてくれ、とてもうれしいです。
- ★はじめましてのお友達ともクリクラウンを通じてすぐに仲良くなれるので、コミュニケーションをとる練習になります。
- ★コロナ禍でのオンライン活動は、ハンデのある家庭には救世主だと感じています。子どもに何もできていないというもやもや感がありましたが、大人も満足感をえることができました。



「コロナ禍により思うように訪問が行けない中で始まったWeb訪問」

コロナ禍により思うように訪問に行けない中で始まったWeb訪問。実際やって思ったことは、Web訪問でも病院訪問と同様に楽しい時間は共有出来るということです。

画面越しではありますが、子どもの楽しそうな反応をみると、病院訪問と同じような感覚です。また、Web訪問という新しい取り組みにクリクラウンになって初めて病院訪問に行くようなドキドキ感やワクワク感もあり、気づけば、あっという間に時間が過ぎていました。

Web訪問では、空間を自由に使えることが強みで、画面に映っていない空間がイメージを広げてくれ、より楽しさを倍増させてくれます。また、子どもは画面を見ているため視点が集中しやすく関わりを取りやすいです。

しかし、難しい点もあります。画面越しのため子どもにクリクラウンの動きや表情が伝わりにくい部分もあり、病院の訪問よりも倍以上の感情や体の動きをし子どもに伝わりやすくすることが必要になります。また、クリクラウン側も子どもの細かい表情や感情の変化に気づきにくい部分もあり、近くで子どもたちをサポートしている付き添い者や病棟スタッフの協力が必要不可欠となります。Web訪問の改善の課題はありますが、今後、コロナ禍が長引くなかで、新しく始まったweb訪問が病院訪問と同じくらいに「子ども時間」を届けることができると感じます。そのためにも、私自身がweb訪問の強みを引き出していく努力しないといけないと思います。2021年度もたくさんの「子ども時間」を届けていくために、頑張っていきます!

直理うみ(クリクラウンネーム う~み)

4.YouTubeクリニックラウンチャンネル画配信

YouTubeクリニックラウンチャンネルを開設し、こどもたちの好奇心や想像力が膨らむ動画を定期的に配信。
2020年3月17日～2021年3月末までに45作品配信(ライブ配信動画含む)

●担当クリニックラウンの感想

訪問先病院から、「Web訪問で出会ったこどもたちが、クリニックラウンの動画を見ていたり、今度Web訪問でクリニックラウンと遊ぶ予定のこどもに予習みたいに見せて楽しんでもらってます。」「処置のディストラクションとして活用している」という感想をいただきました。入院中の家族からは、「病室で音を消しても動きが面白いので楽しめる」という感想も届いており、今後も期待に応えるようにしていきたいです。

2020年度実績
45作品配信



YouTubeクリニックラウンチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UC-46lpmbzaVWBMVa6eoV0cw>



5.クリニックラウンライブ配信

大人もこどもも「こども時間」を楽しみ、笑顔を贈りあうことをコンセプトに、ライブを公式Instagram・YouTubeで配信しました。入院中のこどもたちの家族からリアルタイムにコメントがあり、スタッフの方から当日楽しんでいる様子などの報告もあり、楽しい時間を届けることができました。

A. Instagramライブ配信

2020年度 インスタライブ配信 5回
Instagramフォロワー数 1018 (2021年4月5日時点)



B. YouTubeライブ配信 (配信後アーカイブで閲覧可能)

2020年度 YouTubeライブ配信 6回
(REDNOSEDAY with Clinicdownsライブ配信を含む)
YouTubeチャンネル登録 387 (2021年4月5日時点)



●担当クリニックラウンの感想

初の取り組みのライブ配信では、これまでにないクリニックラウンのいろんな面が見れたのではないのでしょうか☆

Instagramは、お母さんたちが「〇〇病院で会った〇〇です！」などコメントをくれて、こういう形で繋がる事ができるんだと発見があり、YouTubeでは、入院中のこどもたちが見ているだけでワクワクするような時間になるように、ミーティングと練習を重ねて配信してきました！これまで、病院以外でクリニックラウンと会う機会がなかったのがライブ配信というツールのおかげで、より多くの皆さまに「ワクワクな時間」をお届けできたと思います☆

【川島由衣 (クリニックラウンネームきゃしー)】



6.新型コロナに負けない！小児病棟の療養環境を支えるプロジェクト

COVID-19感染拡大の影響と入院中のこどもたちについてのアンケート実施

クリニックラウン訪問先病院の担当者様を対象に、『クリニックラウンWEB事業アンケート(2020年5月8日～5月21日)』を実施。また、入院施設のある小児病棟で働いているスタッフの方を対象に、『新型コロナウィルス感染拡大の影響と入院中のこどもたちの様子についてのアンケート(2020年5月15日～5月31日)』を実施しその結果をHPに掲載しました。※調査目的及び質問事項が同じため、2つのアンケート結果を合わせた形で報告。これらのアンケート結果をもとに2020年度事業に活かすことができました。

実施期間：2020年5月

調査目的：

COVID-19の影響を受け、入院中のこどもたちの抱えている課題や療養環境などがどのような状況にあるのか、実態を把握し、WEB環境を整え、感染のリスクなく外部からサポートする方法を模索するため。

■参加者集計 n=65

対象者：クリニックラウン訪問先病院担当者、小児病棟で働くスタッフ※上記以外にも保護者3名が回答
回答病院数：38病院(うち不明3、重複病院を除く)

「小児病棟にタブレットやWi-Fiを届けよう」

アンケート調査から小児病棟で自由につかえるWi-Fiなどの環境がないことがわかりました。そこで、クリニックラウンWeb事業を希望する全国10病院に、タブレット27台、Wi-Fi7台、パソコン1台の貸し出しをおこないました。定期的にWeb訪問を実施する病院には、事業以外でも活用いただけるようにしたため、面会制限がある中で、付き添いなしの入院しているこどものWeb面会にも使用しているという感想などもあり、療養環境を支える一助になりました。



支援先病院：社会医療法人 北楡会 札幌北楡病院/日本大学医学部附属板橋病院/群馬県立小児医療センター/静岡県立こども病院/福井大学医学部附属病院/富山大学附属病院/大阪市立総合医療センター/大阪医科大学附属病院(2021年4月名称変更)/兵庫県立尼崎総合医療センター/霧島市立医師会医療センター

支援機材：iPad 9台(うち2台はWi-Fiモデル)
Amazonタブレットキッズモデル 18台(Wi-Fiモデル)
ポケットWi-Fi 7台(うち3台レンタル)
ノートパソコン 1台

小児病棟にマスクを届けよう

小児病棟で入院しているこどもたちや家族、そして医療スタッフの家族に、小児用布マスクを届けてほしいという要望があり、協会からの寄贈という形で、クリニックラウン訪問先病院に、小児用エチケットマスクを寄贈し、応援の気持ちを伝えることができました。
小児用エチケットマスク 計435枚 巾着25枚



小児病棟に絵本を届けよう

手塚プロダクションにお勤めの方から、今、辛い経験をのりこえようと頑張るこどもたちの時間を少しでも豊かにしてくれるきっかけになればという想いで、寄贈してくださいました。「GO! GO! アトム」の絵本やシール・ぬりえをセットにし、訪問先病院49病院におくり、遊びの時間を届けました。



寄贈品：「角川アニメ絵本 GO! GO! アトム」50冊
アトムシール 900枚
塗り絵シート 5種類 × 各20枚
レターパック 40枚

「小児病棟で働くスタッフを応援したい!」「入院中のこどもたちのために何かしたい!」と、たくさんの方々に協力していただきながらさまざまな取り組みをおこなっています。

クリニックラウンお手紙プロジェクト & お手紙BANK

「お手紙プロジェクト」は、クリニックラウンが病院に訪問できない中、「入院中のこどもたちに何かできることはないか」とクリニックラウンメンバーが発案し、実現したプロジェクト。クリニックラウンの手作りのカードを191通、入院中のこどもたちに届け、病院からお返事が届くなど交流もありました。



大阪医科大学附属病院 小児病棟 39通
茨城県立こども病院 70通
福井大学医学部附属病院 30通
大阪母子医療センター 4階西 52通

YouTubeクリニックラウンチャンネル DVDお届け隊

訪問先病院へのアンケートから、小児病棟には自由に使用できるWi-FiがないためYouTubeをみることでできないのでDVDにしてほしいという要望を受け、YouTubeで公開している動画をDVDにして訪問先病院へ配布しました。小児病棟や外来で放送しているなど活用いただき、病院からの要望もあり、vol.2を作成しました。今後も希望病院にDVDを配布します。

DVD送付
全国50病院
第1弾 計200枚
第2弾 計210枚



株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループからの応援 クリニックラウンクリスマスカードプロジェクト

このプロジェクトは、三菱UFJフィナンシャル・グループの社員ボランティアが手作りで作成したクリスマスカードに、クリニックラウンの手書きメッセージやイラストなどでデコレーションを加えて、世界のたった一つのクリスマスカードに仕上げ入院中のこどもたちや小児病棟にクリスマスカードを送るというプロジェクトです。三菱UFJフィナンシャル・グループの社員ボランティアの方々と協力し、クリスマスカード803通をお届けしました。

クリニックラウン訪問病院全国49病院の小児病棟のみならず宛に105通。49病院のうち14病院へは、こどもたち一人ひとりに渡してもらう分として660通のクリスマスカードを送付。自宅療養中のこどもたちや施設などに38通のクリスマスカードを送りました。

クリスマスカード募集期間：2020年11月1日(日)～30日(月)

内容：ボランティア募集案内を作成。クリスマスカードの作り方(2パターン)と動画(QRコード)を作成。
クリスマスカードは直接協会宛てに送付。

送付クリスマスカード総数：803通
(クリニックラウン作成成分を含む)

送付先病院：49病院



クリニックラウンWeb事業を応援したいと、タブレットや文房具など寄贈やDVDの焼き増しボランティアやご寄付など、本当にたくさんの方が活動を支援してくださいました。本当にありがとうございました。

「元看護部長の立場から、 クリニックラウンのweb訪問を考える」

認定 NPO 法人日本クリニックラウン協会
理事 西山裕子

小児看護の目指すところは、「こどもの最善の利益を目指す」ことである。小児はおかれている状況の中で、様々な影響を受けながら成長発達しているという、他のライフサイクルとは異なる特性を持っている。

「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」は、1989年の第44回国連総会において採択され、1990年に発行され、日本は1994年に批准した。その中で「こどもの時代は特別なケアおよび援助を受ける資格があること」が宣言された。その権利は4つの大きなカテゴリに示された。

「①生きる権利：こどもたちは健康に生まれ、安全な水や十分な栄養を得て、健やかに成長する権利を持っています。②育つ権利：こどもたちは、教育を受ける権利を持っています。また、休んだり遊んだりすること、様々な情報を得、自分の考えや信じるのが守られることも、自分らしく成長するためにも重要です。③守られる権利：こどもたちは、あらゆる種類の差別や虐待、搾取から守られなければなりません。紛争下のこども、障がいを持つこども、少数民族のこどもなどは特別に守られる権利を持っています。④参加する権利：こどもたちは、自分に関係ある事柄について自由に意見を表したり、集まってグループを作ったり、活動することができます。そのときには、家族や地域社会の一員としてルールを守って行動する義務があります。」となっている。

また、病院のこども憲章の中では「小児看護領域で特に留意すべきこどもの権利と必要な看護行為」が示されている。9つの項目は「①説明と同意②最小限の侵襲③プライバシーの保護④抑制と拘束⑤意志の伝達⑥家族からの分離の禁止⑦教育・遊びの機会の保証⑧保護者の責任⑨平等な医療を受ける権利」となっている。

どちらの内容をみても、日本クリニックラウン協会が担っている「すべてのこどもにこども時間を」というビジョンが含まれており、そのことが小児の健全な成長発達に不可欠であることが、重視されている。

今回の新型コロナの地球的感染拡大に至る前まで、少なくともクリニックラウンが（他の同様の活動を含めて）訪問していた病院においては、「こども時間」を提供することで、このことは保証されていた。こどもたちはそこに居る家族を含め、クリニックラウンと接する時間で病気ではない健康な部分のいつもの自分を取り戻し、楽しく笑顔を見せたのである。しかし、新型コロナの襲撃(!?)を受け、命が最優先されその他のことは後回しになった。こどもたちは親を含めて人との関わりを絶たれ、そこにおとなしく過ごすことを余儀なくされたのである。人類が経験しなかった状況は弱者から置き去りにされる。このことは、長い歴史の中で致し方ないこととして片づけられる。

当初、日本クリニックラウン協会も何とかしなければという思いは持ちつつも、受け入れを継続していた病院施設からの訪問のお断りの連絡が届き、手をこまねくしかなかった。しかし、短期に解決できる状況ではないことが予測され、どうすれば本来のビジョンに立ち戻って役割を果たすことができるか、こんな時だから



こそすべき役割があるのではないかと積極的な対策に着手したのである。

そここのところは社会の中で様々な立場や特性をもつ人々の集団である。情報社会の特性を利用してこどもたちに「こども時間」の提供を復活させるためのアイデアが次々に出され、時代の後押しもあり、広く社会に活動が周知され、現在のWebによるクリニックラウンの訪問を実現させた。

Web訪問に同行していると、今まで実際に訪問していた時と同様にこども達は笑顔を見せる。顔馴染みのクリニックラウンがいて、目の色が変わる。そこにいるかのように手を伸ばし、遊びに参加する。確実に「こども時間」を謳歌している。同様に束縛され不安に苛まれているご家族、医療スタッフたちが一層の笑顔を見せる。自分の番が終わってラウンがバイバイした後も、親子で或いは医療者たちと、楽しい会話が続く。聞いた。コロナによる重苦しい空気が変わる。小児に関わる医療スタッフもいつものように、楽しい時間を提供できない苦しい気持ちから解放されるのである。

私自身、スタジオで画面を通じた交流がこれほどまでに今まで通りのコミュニケーションに展開できるとは思っていなかった。同じ時間を共有することが、ここまでこどもにこもらしさを取り戻させるとは思ってなかった。毎週感動する。コロナがいつ収束するかは未知ではあるが、同じ時間を共有する方法は、様々な発展できる。今まで、重症でベットサイドに行けなかったこどもたち、小児病棟ではなく一般病棟に入院することを強いられているこどもたち、様々な施設にいるこどもたち、通院で外来診療を受けているこどもたち、手術室にいるこどもたち、ICUにいるこどもたち、在宅にいるこどもたち。臨終のその時にでも、色んな場所で「こども時間」奪われ戦っている真に「こども時間」を必要としているこどもたちの元に、Webならどこでも行ける。それが可能だということこそが教えてくれた。

ただ残念なことに今回これも明らかになったことだが、病院施設は外部からの電波進入を恐れ、或いは個人情報拡散を恐れ、Web環境が整備されていないことがわかった。病院のこども憲章に明確に謳われているのだから、この機会に当たり前に整備することが必要ではないかと痛感する。また、直接のクリニックラウンの訪問においても、受け入れ病院の特性はあるにしても、格差が大きい。感染を怖がるのではなく、安全に実際訪問できるための標準的なルール作りも今後の課題である。

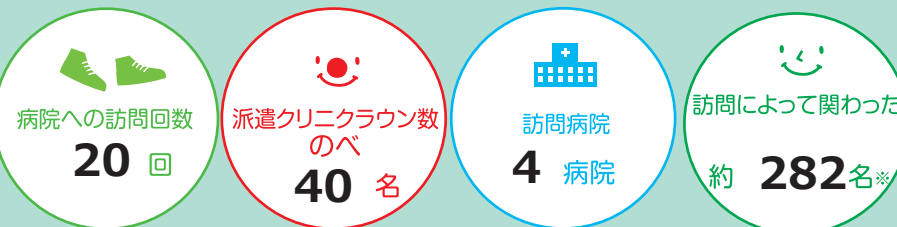
つまりそれこそが、「こども時間」をこどもたちに届けるための、こどもに関わる大人たちの責務だと考えている。

2020年度クリニックラウン派遣事業

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、クリニックラウンの訪問が2020年2月末から中止となりました。そこで、「新型コロナウイルス感染拡大予防にかかる標準的対策」を作成し、これまでの感染予防についての研修実績などの情報を訪問先病院に提出し、一部病院で訪問を再開することができました。

訪問時は、病棟スタッフと「マスクの着用やフェイスシールドやゴーグルを着用」「クリニックラウンとこどもたちとの遊びの中での接触や道具の受け渡しはしない」「病棟内、病室内の環境にもできるだけ触らない」など、こどもたちと安心安全に関わるための打合せを行い、訪問しています。コロナ禍、感染のリスクから厳しい行動制限を受けているこどもたちやご家族にとって、貴重な時間になったとスタッフの方からの感想を頂いています。訪問先病院のスタッフのみなさんが温かくクリニックラウンを迎えてくださっており、協会としても、感染対策を行いながら、安心安全にかかわるための方法をこれからも模索し、こども時間を届けるための努力を続けていきます。

2020年度は、コロナ禍、全国4病院を20回訪問！ 入院しているこどもたち282名に「こども時間」を届けました！



「入院中の子どもたちにとって今必要なこと」

クリニックラウンはコロナ禍でも病院としっかりと連携を取り、可能な限り、リアルでの病院訪問も続けています。リアルでの病院訪問の魅力は、我慢が出来て、無理を言わない、自分で一人の時間を黙々と過ごすことの出来る少し大きなお子さんにも関わることです。コロナ禍になる前だと「大丈夫だから、小さい子の所で遊んであげて」と関わりを譲ってくれていた子達もベットを訪ねるとあれこれ話してくれたり、こちらのやり取りを聞いてくれたり、時には大切な物を見せてくれたりします。やはり、色々な制限の中で社会や人との関わりが極端に不足しているんだろうと思います。本当に普通の何気ないやり取りなのですが、普通がままならない今、それは大切な時間です。そういうかけがえのない時間をこれからも大切に作っていきたいと思います。【藤本真実子 クリニックラウンネームまめたん】



「2020年度をふりかかって」

病院訪問再開後のクリニックラウンの姿は、見た目の安心にも配慮してフェイスシールドにマスク着用。見えているのは、目元と赤い鼻。靴の中のひみつの道具も、子どもが触れるものは使用せずにソーシャルディスタンスが基本になりました。担当スタッフさんが申し訳なさそうに「全員接触なしで行けますか？」と聞いてくださることもありますが、クリニックラウンは答えます。「おまかせください！」

医療スタッフさんたちに応援されながら、クリニックラウンのデコボココンビが廊下を歩く。ジェスチャーや大きな動きで、子どもたちと遊びはじめると、非日常の可笑しい空間が生まれます。医療スタッフさんたちが仕事の手を止めて、手を振ってくれれば、病棟が華やいだ雰囲気になる。子どもたちが、クリニックラウンの動きを真似したり、手品の魔法をかけたり、クイズに答えたり、パワーを送ったり、踊ったり、机を叩いてリズムをとったり、遊びの中で真剣な顔を見せたり笑ったりするたびに、大人たちがそれを一目見ようと伸び上がる・・・そこに言葉以上の心の繋がりを感ずります。顔を合わせる事、目を見る事、同じ空間に一緒にいること、「楽しい！」を共有することが、どれだけ貴重で尊いことか！ その一瞬を作り出すたくさんの人たちの繋がりに、感謝の連続の年となりました。

【武田由紀 クリニックラウンネームぐんぐん】



2020年度クリニックラウン養成事業



1. 新規クリニックラウン養成事業

コロナ禍、実際の病院での研修が難しいと判断し、クリニックラウンweb訪問に向けての研修を行い、クリニックラウンweb認定を目指しました。Web訪問実施中の7病院と、自宅療養中の子どもたちの8家族に協力を得て、計のべ43回実習を実施しました。

養成研修前期課程(計4回)
養成研修中期課程(計6回)
養成研修後期課程①(病院・個人のWeb訪問研修)
養成課程後期課程②フォロー研修(計6回)

新しいWeb認定クリニックラウンが4名誕生しました!

2021年2月24日(水)に、Webクリニックラウン認定試験を実施し、4名の新しい仲間が誕生しました。Web訪問の実習では、研修生を受け入れてくださった病院スタッフのみなさま、ご家族の皆さま、新しい仲間誕生を応援して下さったみなさま!本当に、ありがとうございます。2019年2月からスタートした、新規クリニックラウン養成過程。コロナ禍、思うように研修ができなかったり、病院での臨床研修は、Web訪問に変更したり、いつも以上に、険しい道のりでした。でも、4人はいつもモチベーションを高く、「楽しむ気持ち」を忘れず、この困難な状況をもポジティブに乗り越えてきました!仲間として、誇りに思います。「認定はゴールじゃなく、スタート!」これから、この4人がどんなクリニックラウン人生を歩んでいくか、今から楽しみです!これからも、初心を忘れず!楽しむ気持ちを忘れず!ともに成長していきたいです。【養成担当 川島】



左から、「おみ」「ちゃみー」「みん」「マイン」です!

2. クリニックラウン研修会(年12回開催)

体を動かす研修では、感染対策を行い、時間を区切り10名以下で実施し、オンライン研修も取り入れました。また、新型コロナウイルス感染拡大予防にかかる標準的対策を話し合い、それを踏まえ、「接触や道具の受け渡しはしない。子どもや家族スタッフとも一定の距離をあけて開く方法」など新しいクリニックラウンの病院訪問の様式について研究しました。面白い動きや遊びの発見があり、制限があることをなげくのではなく、いまでできることを、いかに楽しくアレンジしていくかを体感し、活かしていきたいと思えます。【養成担当 和果】



3. クリニックラウンWeb勉強会(計5回)

新規事業のクリニックラウンWeb訪問に向けて、画面を通して子どもたちと楽しく、面白く、ワクワクドキドキする遊びや関わり方について話し合い、そして実際にzoomを使用して、画面に映る自分たちを確認してどのような見られているのか、Webならではの面白さとは何かを体感する勉強会を少人数で実施。クリニックラウンのスキルアップにつながりました。【養成担当 伊佐】



【感染症対策についての取り組みと研修】

新型コロナウイルス感染拡大の影響を考え、クリニックラウンの病院訪問の再開にむけて、「新型コロナウイルス感染拡大予防にかかる標準的対策」(2020年6月12日)を作成し、それに基づき実施しています。

「新型コロナウイルス感染拡大予防にかかる標準的対策」【2020年6月12日作成】
「2020年度版感染症対策マニュアル」【2020年4月1日作成】
「感染症対策としての方針(抗体検査及びワクチン接種)」【2018年3月更新】

※クリニックラウンは、一般社団法人日本環境感染学会(<http://www.kankyokansen.org/>)の「医療関係者のためのワクチンガイドライン」に基づき、ワクチン接種などの対応をしています。
※クリニックラウンは、年1度、クリニックラウン研修会にて感染症対策などについて内部講師による、ミニレクチャーや外部講師を招いて研修会をおこなっています。詳しくは当協会HPをご覧ください。



2020年度クリニックラウン啓発事業



RED NOSE DAY 8.7 with CliniClowns

1. チャリティイベント「RED NOSE DAY with CliniClowns」

入院中の子どもを支援するチャリティイベントとして、「RED NOSE DAY with CliniClowns」を開催。8月7日正午12時から1分間、RED NOSE(赤い鼻)をつけることをシンボルとして、日本中に笑顔のムーブメントを広げ、笑顔を贈りあいました。

実施日:2020年8月7日(金)12:00~12:01
実施場所:日本全国・世界中どこでも

★YouTubeライブ配信カウントダウン

一般財団法人H2Oサンタ様にご協力いただき、阪急百貨店うめだ本店「阪急うめだホール」にて、YouTubeライブ配信カウントダウンを実施しました。感染対策を行い無観客でのライブ配信を行いました。ライブ配信中には、別会場のZoomで繋がっているみんなとアクセスしました。スクリーンにみんなの顔が映り、全国のみんなと一緒に笑顔を送ることができました。ライブ配信は、クリニックラウンが訪問している病院の子どもたちも見てくれて、スタッフさんたちと一緒に、12時に「ノーズオン!」して笑顔を送りあいました。

主催:認定NPO法人日本クリニックラウン協会
共催:一般財団法人H2Oサンタ
実施日:2020年8月7日(金)11:30~12:30
会場:阪急百貨店うめだ本店「阪急うめだホール」

★Zoomをつかってリモートカウントダウン

4病院5施設を含めた19カ所、約80名の子どもたちや家族、スタッフの方々と一緒に繋がって「ノーズオン!」することができました。そして、別会場のYouTubeライブ配信にも途中でつながり、全国のみんなと一緒に笑顔を送りあうことができました。沖縄県や福井県、宮城県とクリニックラウン訪問先病院の子どもたちが参加してくれて、たくさんの人と繋がることができました。そして、病気や障がいを抱える子どもたちやそのきょうだいを支える施設や団体も参加して下さり、笑顔を送りあいました。

実施日:2020年8月7日(金)11:30~12:30
会場:オンライン(ZOOM)
対象:クリニックラウン訪問先病院、病気や障がいを抱える子どもとそのきょうだい、病気や障がいを抱える子どもたちや家族を支える施設や支援団体など



※当日はNHKの取材が入り、NHKニュース ほっと関西でRED NOSE DAYのことが紹介されました

2.第2回Healthcare Clowningと療養環境を考える多職種勉強会

病気や障がいを抱える子どもたちと家族を支えるためには、社会全体が“成熟”することがとても重要です。今回は、「いつも心に赤い鼻を～成熟社会を目指して、わたしができること」をテーマに、コロナ禍でも、変化する療養環境を理解するために、多職種が集まり智恵や経験を共有する場をつくることができました。また、日本におけるヘルスケアクラウンの取り組みを紹介することができ、だれもが心の中にもっている「赤い鼻」や人と人がつながることの大切さ・人間愛について考える機会となりました。

日程：1日目:2020年9月5日(土)10:00～13:00(9:40入室開始)
2日目:2020年9月6日(日)13:00～16:30(12:40入室開始)
参加費 9/5(土) 3,000円 / 9/6(日) 3,000円
参加者:1日目70名 2日目74名(※スタッフ講師などを含む)



【1日目】

●ご挨拶 & 問題提議

「コロナ禍で、成熟社会を目指して、わたしができること」
認定NPO法人日本クリクラウン協会
理事長 河 敬世 氏



●レクチャー

「新型コロナウイルス感染症に病院がどう立ち向かっているのか？」
大阪医科大学附属病院 感染対策室 感染管理認定看護師
川西 史子 氏



「～こんな時こそ、ノーサイド！
～コロナ禍の障がい福祉の取り組み」
株式会社ノーサイド 代表取締役 中西良介氏



「感染のリスクなく『子ども時間を届けたい』
クリクラウンWeb訪問への挑戦！」
認定NPO法人日本クリクラウン協会 理事・トレーナー
石井 裕子 氏



【2日目】

●シンポジウム

～病弱教育の視点がコロナによるこの状況のお役にたてるかも～ 院内学級の子どもたちがおしえてくれたこと
昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授 副島 賢和 氏



「コロナ禍でみつけたクラウンの可能性～
RONE&Gigiが伝えたいこと」
クラウン劇団OPEN SESAME 主宰
高野 呂音 氏 / 有間 千氏



「出来ないことを魅力に変える！～障がいをクラウン・キャラクター化するチャレンジ、そして文化政策法整備を提言するフルとしての挑戦～」

一般社団法人 日本エンターテイメント連盟
代表理事 白井博之 氏



●団体の活動紹介

特定非営利活動法人日本ホスピタル・クラウン協会
理事長 大棟 耕介 氏



Clown One Japan (クラウン ワン ジャパン)
代表 金本 麻理子 氏



認定NPO法人 日本クリクラウン協会
クリクラウン 川島 由衣 氏

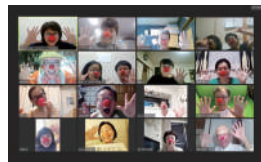


3. あかはな会員大集合！ 2020年度クリクラウン報告会

全国のあかはな会員や支援者を対象の活動報告会。2019年度報告や、今、どのような取り組みをしているのかなどを報告することができました。

日程：2020年7月31日
20時～21時

対象：あかはな会員・寄付者 ボランティア・応援したいと思っている方
参加者：19名(うちスタッフ4名)



4. あかはな応援動画募集

病院で働くみなさまへ感謝の気持ちをあかはな写真で届けよう！

募集期間：2020年4月14日～
4月20日(月)

内容：医療従事者の方々へ感謝の気持ちをあかはな写真で応援する写真を募集し、応援動画を作成。

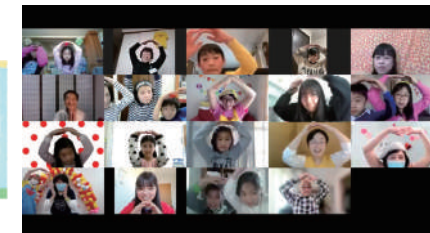


多くの方々のご協力のおかげでコロナ禍でも、たくさんの啓発活動を実施することができました。また、コロナ禍だからこそ、チャレンジすることができた企画もあります。参加・ご協力いただいたみなさま 本当ありがとうございます。

5. あかはなJrボランティア～インタビュー体験開催

小中学生が、オンラインでクリクラウンにインタビューをおこない、子どもたちが書いたインタビューの内容や感想をクリクラウンジャーナルに掲載するプログラム。当協会のライターボランティアが「コロナ禍でも子どもたちにとって新しい出会いや発見・経験の場にしたい」と企画。子どもたちが、入院中の子どもたちやクリクラウンの理解を深めたり、ライターボランティアの活動を知り、自分の想いを込めて、聞いたことを誰かに伝えることの大切さや、ボランティアについて子どもたちが考える機会をつくりました。

日程：2021年3月14日(土)10:00～12:00
参加者 15人



6. 15周年応援動画募集

「15周年を迎えた日本クリクラウン協会にお祝いのメッセージを届けたい！」と、ボランティアリーダーが「お祝い動画 Project!」を企画。みなさまからの「おめでとう」を10秒以内の動画で募集。

動画撮影ルール：①10秒以内の動画②15周年を祝うアイテム・メッセージと一緒に撮影
募集日程：10月19日(月)～12月10日(木)

7. フェイスブックライブ配信

「92(クリニ)チャリティトークいつも心に赤い鼻」というタイトルでFacebookライブ配信を実施しました。支援者にむけて、「今の日本クリクラウン協会の取り組み」や「クリクラウンのことや、病気や障がいを抱える子どもたちやきょうだいのこと」を知り、「私たちができることは何か」を考えるきっかけをつくりました。支援者からのコメントも多く、今の状況を伝えることができました。実施日程 2020年7月～10月 計4回

8. ボランティア活動

啓発事業ではたくさんのボランティアの方々の協力のおかげで実施することができています。本当にありがとうございます。2020年度は、ボランティアリーダー4名。ライターボランティア4名が中心となりボランティア活動を実施。コロナ禍、ミーティングはオンラインに変更し、ボランティア活動がなかなかできない中、どのようにクリクラウンの活動を知ってもらおう機会をつくっていくか？いろいろなアイデアをだしあいました。「15周年応援動画募集」や、「あかはなJrボランティアインタビュー体験」は、ボランティアのみんなのアイデアから生まれ実現した企画です。頼もしい仲間がいることに本当に感謝です。コロナ禍、ボランティア活動や募集が難しい状況が続いていますが、関心を持ってくださった方が参加できる機会を皆さんと一緒に作っていきたいとおもいます。【担当熊谷】

ボランティアリーダー定例会議 年12回
ライターボランティア クリクラウンジャーナル編集会議 年10回開催
(クリクラウンジャーナルはP●を参照)

9. 講演会 & ワークショップ(講師派遣)・報告会・贈呈式など

コロナ禍、講演会やWSの依頼は減少しましたが、毎年依頼をうけていた看護大学、専門学校の授業は一部オンラインに変更するなど工夫をしながら実施しました。また小学校では感染対策をおこないコミュニケーションのWSを実施することができ、子どもたちの感想にすごく励まされました。試行錯誤の連続でしたが、主催者の方と相談し、協力しあうことでオンライン・リアルともに安全に授業や講義を実施することができて、本当によかったです。この経験はきっと次に活かせるはず。クリクラウンの活動をとらえて、「入院中の子どもたちのこと。」「コミュニケーションの大切さ」などたくさんの方々に伝えていきたいです。【担当熊谷】



対外的な啓発活動
(講演会など)
21回

一般財団法人 H₂Oサンタ
(エイチ・ツー・オーリテイリンググループ)

★H₂O サンタNPOフェスティバル



阪急・阪神百貨店をはじめとするエイチ・ツー・オーリテイリンググループの社会貢献団体である一般財団法人 H₂O サンタが主催するチャリティイベント。期間中、子ども支援に関わる 24 団体を紹介。COVID-19 の影響を考え、各ブースには団体のスタッフは配置せず、活動紹介のパネル展

示や、コロナ禍での団体の取り組みを動画紹介しました。
期間：2021年2月16日(火)～3月1日(月)
場所：阪急百貨店うめだ本店 9階祝祭広場
内容：啓発ブース・活動紹介動画→→→



動画みてね！

★H₂O サンタチャリティーガイドコーナー

阪急百貨店うめだ本店の 9 階祝祭広場、12 階レストランフロア、神戸阪急本館 9 階、高槻阪急 1 階の4箇所で、活動を紹介していただきました。

★H₂O サンタ × JAMMIN チャリティー T シャツ
チャリティー専門のファッションブランド『JAMMIN』のチャリティー T シャツ。上記、期間中に Web から購入すると 1 枚につき 700 円が団体の寄付。(2019 年 1 月のコラボデザイン)

★ロハスフェスタ万博 H₂O サンタチャリティーパーク
「ロハスフェスタ万博 2020 秋」に、一般財団法人 H₂O サンタが出演！ H₂O サンタが支援する社会貢献団体の活動内容をパネルで紹介し、寄付を募りました。当協会を支援先団体の 1 つに選んでいただき、感染対策を行い、活動紹介のステージ・啓発ブース・ガチャガチャ募金を実施しました。
期間：2020年10月31日(土)11月1日(日)
会場：大阪の万博記念公園 東の広場(大阪府)

★「RED NOSE DAY with Cliniclowns」(詳しくは P10)
阪急百貨店うめだ本店「阪急うめだホール」で開催した、YouTube ライブ配信カウントダウンに共催として協力していただきました。いろいろな形で応援してください本当にありがとうございます。

未来への手紙プロジェクト
(公益社団法人 日本フィランソロピー協会)

2011 年 7 月にスタートした、赤ちゃんが生まれた喜びを手紙に残すという「未来への手紙プロジェクト」～生まれてくる君へ、育ちゆくあなたへ～。子どもの誕生に関わる家族の物語や名前の由来などを、家族が手紙に書き、未来に残そうという企画の共催団体として、2020 年度も広報に協力しました。

主催：公益社団法人 日本フィランソロピー協会
共催：毎日新聞社 / 認定 NPO 法人 日本クリニックラウン協会



Give One (公益財団法人 パブリックリソース財団)

オンライン寄付サイト「Give One」のサイトのリニューアルにともない、当協会の活動紹介ページも更新。クリニックラウンの訪問費用についての寄付金を募集しています。



HP みてね！

クリニックラウン応援宿泊プラン
(阪急阪神ホテルズ 阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト)

ご宿泊代金の一部(1名様あたり500円)に「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」が同額を上乗せした合計1,000円が寄付になるクリニックラウン応援宿泊プランで活動を応援していただきました。応援ありがとうございました！

<実施ホテル>
第一ホテル東京・第一ホテルアネックス・レムプラス銀座・レム東京京橋・レム日比谷・レム秋葉原・レム六本木・第一ホテル東京シーフォート・吉祥寺第一ホテル・レム新大阪・レムプラス神戸三宮・レム鹿児島

阪急阪神第一ホテルグループの HP みてね！
「クリニックラウン応援プラン」サイト



『保険クリニック』スマイルプロジェクト 2020
(株式会社アイリックコーポレーション)

『保険クリニック』スマイルプロジェクト 2020 では、保険の定期健診(分析)をされた保険証券 1 枚につき 100 円、保険クリニックの公式 Twitter での 1 リツイート、Instagram での「# 保険クリニックの日」のついた投稿 1 件につき、それぞれ 10 円を寄付するというプロジェクトで応援していただきました。2020 年 12 月に寄付金贈呈式を当協会の事務局にて開催しました。応援ありがとうございます。保険クリニックスマイルプロジェクト



HP みてね！

中高生によるチャリティームービープロジェクト
(主催：公益社団法人 日本フィランソロピー協会)

中高生が主役となり、コロナ禍で奮闘する NPO と寄付について学びながら動画を制作、寄付を呼び掛け応援するプロジェクトの支援先団体として協力しました。全国各地から中高生 70 名が参加し、2020 年 8 月より 3 カ月間オンライン上で寄付や NPO の活動について学び試行錯誤しながら、その魅力を伝える 85 秒の動画をそれぞれ制作し、寄付を集めてくれました。応援ありがとうございました。
【最優秀賞 受賞】
平第三中学校 2 年生チーム「みんなで応援！日本クリニックラウン協会！」の動画が選ばれました



動画みてね！

社内寄付制度で応援
(マルホ株式会社)

大阪に本社があるマルホ株式会社の「まるほっとギフト」という社内寄付制度でクリニックラウンの活動を継続して応援していただいています。寄付金目録の贈呈式に当協会に来ていただきました。また、2021 年 3 月に社員の方にオンラインでの活動報告会を実施していただき、支援団体と一緒に報告することができました。応援していただいた社員のみならず本当にありがとうございます。



大阪ガス Daigasグループからの応援
(大阪ガス株式会社)

★「おうちでみんなつながるガスてん」(Daigasグループ) Daigasグループが主催する「ガスてん」の「つながるプロジェクト」は、世の中のつながりを支える NPO 団体を支援し、すこやかに明るい私たちの「まち」の未来に貢献するというものです。ガスてん抽選参加者 1 名につき 10 円が対象の NPO 団体に支援金として寄付され、その支援対象団体の一つに当協会が選ばれました。サイトでは、活動を紹介するページや動画を作成して応援していただきました。応援ありがとうございました。



★Social Design+
2021年3月1日から「マイ大阪ガス」の会員が、ポイントによる寄付で NPO を応援するプログラム「Social Design+」の支援先団体の一つに選ばれました。マイ大阪ガスのサイトでは、「病と闘う子どもたちとその家族への支援」をテーマに、3カ月間にわたり、活動記事とムービーで、「NPO 法人しがたね」と「認定 NPO 法人日本クリニックラウン協会」の 2 団体の取り組みを紹介し、応援を募っていただきました。

★オンラインセミナー「Reスタート！」
社会の問題解決に取り組む NPO や地域を支える団体を応援するオンラインセミナーで、コロナ禍の当協会の活動を紹介していただきました。

ORGABITSクリニックラウンプロジェクト
(豊島株式会社)

★ORGABITS×クリニックラウンプロジェクト
オーガニックコットンを通して地球に「ちょっと良いこと」を行うプロジェクトブランド「ORGABITS(オーガビット)」(豊島株式会社)との「ORGABITS×クリニックラウンプロジェクト」。このプロジェクトのタグがついている商品を購入いただくと、1 枚につき 10 円を当協会に寄付いただき、クリニックラウンの活動を応援するというプロジェクト。2011 年から応援していただいています。



「coen(コーエン)」
×CliniClown HP みてね！
チャリティー T シャツ ORGABITS サイト

あなたの美味しいが未来への寄付へ
【Gochisoプロジェクトに参加】

食事を通じて寄付を可能にする「Gochiso」のサイトからレストランの予約・事前決済を行うと、食事代の最大 20% の Gochiso ポイントがもらえ、その Gochiso ポイントを、NPO 団体へ寄付や次回の食事に利用できるサービス。当協会も登録し、応援していただいています。



マッチングシステムで応援
(グンゼラブアース倶楽部/グンゼ株式会社)

グンゼラブアース倶楽部は、グンゼ創立 110 周年記念の社会貢献事業として 2006 年に発足。社員の方から募った寄付金と会社のマッチングシステムで、当協会は、2006 年から毎年応援していただいています。応援していただいた社員のみならず本当にありがとうございます。

社員ボランティアで応援
(株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ)

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ(※1)は、闘病中の子どもたちや貧困家庭の子どもたちを対象に活動している 3 団体に対して、3 年間で総額 1.8 億円の継続的な寄付をすることを決定し、その寄付団体の一つに当協会が選ばれました。

コロナ禍、応援していただけることに本当に感謝です。また、小児病棟にクリスマスカードを贈る「クリニックラウンクリスマスカードプロジェクト」では、三菱 UFJ フィナンシャル・グループの社員ボランティアの方々も協力し、クリスマスカード 803 通をお届けしました。(詳しくは P6)

たくさんの社員ボランティアの方々が協力していただき実現することができました。これからも闘病中の子どもたちの未来のために、頑張っていきたいとおもいます。
※株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ
株式会社三菱 UFJ 銀行、三菱 UFJ 信託銀行株式会社、三菱 UFJ 証券ホールディングス株式会社、三菱 UFJ ニコス株式会社、アコム株式会社

みんなでパナソニックオープン プロジェクト
(パナソニック株式会社)

一般社団法人日本ゴルフツアー機構)

このプロジェクトは、パナソニック株式会社が病気と闘う子どもたちやご家族、医療従事者の皆さんを笑顔にしたいと立ち上げた企画。「パナソニックオープンゴルフチャンピオンシップ」が COVID-19 のため中止となり、一般社団法人日本ゴルフツアー機構やゴルフ選手の協力を得て、立ち上げたものです。クラウドファンディング型 EC サイト「TAMATEBA」の「# みんなでパナソニックオープン」に、選手のサイン入りグッズを提供していただき、チャリティグッズの購入を通して、クリニックラウン活動を応援していただきました。



みんなでパナソニックオープン企画 みんなでホールインワン動画完成！

ご支援いただいた支援金の一部を活用させていただき、子どもたちを笑顔にしたいという思いから、医療従事者の方々、小児病棟で病気と闘う子どもたち、そしてプロゴルフ選手と協力し日頃の感謝の思いをつなぐ「みんなでホールインワン動画」をプロジェクトの一つとして作成しました。



動画みてね！

ガチャガチャ募金で応援
(シービーアールイー株式会社)

クリニックラウンの活動を知って応援したいと、シービーアールイー株式会社のスタッフの方からご連絡をいただき、2020 年 10 月・11 月に、社内の 2 か所でガチャガチャ募金を設置。また募金箱をおくなどしてクリニックラウンの活動を応援していただきました。協力していただいた社員のみならず、応援ありがとうございました。



入院の子に笑顔 ウェブ交流

訪問団体、タブレット貸し出し



病院を訪れ、入院中の子供たちを励ましていく「プロ法人」日本クリニック協会（大阪府）が、オンラインでの交流を始めた。きっかけは、新型コロナウイルスの影響で訪問中止となる中、クリニックへ臨床心理士との再会を心待ちにしてきたが、感染リスクは感染防止のため、家族も十分に不安を抱えて過す子供たちと笑顔を見せる。

道化師好きだった女兒思い

「会いたかったよ」。6月8日、トレードマークの赤い鼻を打たせ、マスクを付けた道化師4人が、その個室で、協会から借りたタブレット端末を見ながら、ハーモニカ演奏を楽しんだ。



宇佐美都敬・小児科部長は「子供も家族もコロナでストレスと不安が増している。リフレッシュできてよかった」と話す。

協会は2005年に発足。以来、養成したクリニックラウンを各地の医療機関に派

病院を訪れ、入院中の子供たちを励ましていく「プロ法人」日本クリニック協会（大阪府）が、オンラインでの交流を始めた。きっかけは、新型コロナウイルスの影響で訪問中止となる中、クリニックへ臨床心理士との再会を心待ちにしてきたが、感染リスクは感染防止のため、家族も十分に不安を抱えて過す子供たちと笑顔を見せる。

2020年6月27日 読売新聞（夕刊）

新聞やニュースなどの取材に協力していただき、クリニックラウンの活動を応援してくれているめいちゃんの家族がチャリティキーホルダーでクリニックラウンの活動を応援してくれています。（詳しくは15P）



クリニックラウンジャーナル 病气や障害を抱える子どもや家族への関心を高めるWebメディア

2020年度は、ライターボランティアのみなさんの協力のもと、7記事を掲載しました！ また、「あかはな」ボランティアが作成した13記事を協会HPに掲載しています。

- 「クリニックラウンジャーナル読者とライターの間をつなぐ～編集者・杉本恭子さんへのインタビュー」5月26日/取材・文：石倉
- 「コロナ禍で直接会えなくても『こども時間』を届けたい！」お手紙プロジェクト・始動～」7月15日/取材・文：香川
- 「映像を通して『こども時間』を届ける！ コロナ禍の今、クリニックラウンが発信するYouTube動画の撮影現場」9月1日/取材・文：石倉
- 「クリニックラウンへの最初の一步 らが～の道のりをたどる①」10月6日/取材・文：塚本
- 「クリニックラウンへの最初の一步 らが～の道のりをたどる②」11月4日/取材・文：塚本
- 「それは素敵なおまじない 誰もが誰かのサンタになれる 優しさがきらきら反射するステージの案内人：外間孝次さん」6月21日/取材・文：東元
- 「子どもの可能性を引き出すイベント開催！あかはな」r. ボランティア～インタビュー体験～レポート」3月26日/文：塚本

5歳の贈り物 笑顔にかえて



入院の子どもたちに笑顔を届ける道化師「クリニックラウン」。新型コロナウイルスの影響で病院への立ち入りや制限される中、ネットを通じて交流力を入れている。「直接会えなくても、今できることをしよう」。活動の拠り所となったのが、5歳の女の子から贈られたクラウンの似顔絵だった。

7都府県に緊急事態宣言が出された後の4月半ば、大阪市の山本芽依ちゃん、同封された母の愛由紀さん宛の手紙には、芽依ちゃんが20日に「 became a clown」と書かれていた。5歳10月だった。

心算を思いついた芽依ちゃん、短い人生ほど心を病んで通った。

クリニックラウン 病院などの医療施設（クリニック）を定期的に訪問する道化師（クラウン）を共に遊び、コミュニケーションをとることで、入院中の子どもを支える。認定NPO法人日本クリニックラウン協会には、試験に合格した認定クリニックラウン30人が所属、2019年度には全国48施設で延べ9588人の子どもと交流した。

病院に愛を届ける道化師 勇気をくれた似顔絵



色とりどりの衣装を身に纏って、ハーモニカを吹いたり、血回りを促進したり、毎日のようにクラウンの動画や協会の冊子を見ていた。大好きで憧れていたと芽依さんは語る。

2月の訪問後、病院で似顔絵を描いた。いつもは恥ずかしがると話していた。今年、自分で選んだ。

しかし、新型コロナウイルスの影響で、3月に予定されていた訪問は中止に。同じ頃、芽依ちゃんも入院中だった。

芽依ちゃんの手紙には、クラウンへの感謝と、新型コロナウイルスの影響で、1ヶ月も来なかったと書いてあった。

入院中の子どもが親に会えない状態に、協会事務局の熊谷恵利子さんは衝撃を受けた。「予想外にこんな状況。不安もあるけれど、動いてほしい。芽依ちゃんのように待っていてほしい子どもたちがいる」と話した。

待っている君へ ネット交流

感染予防のため、2月末から病院を訪問できなくなり、代替策としてクラウンが登場する動画をアップしていた。だが、訪問先の病院へのアンケートで、病室にネット環境がなかったり、接続する機材がなかったりして再生できないことがわかり、急いでDVDを送った。

6月には、クラウンと病院の子どもをテレビ電話で結んで一緒に遊ぶ取り組みが始まった。クラウンは、パソコンのカメラに向け、明るい声で子どもを呼び、画面が歪むのを気にせず、同じ動きをまねし合ったりして楽しむ。

ネットの特性を生かし、対象を入院中の子どもだけでなく、自宅療養中や放課後デイサービスを利用する子ども、そのきょうだいにも届けた。

クラウンのきょうしつは、芽依ちゃんのお母さんに「訪問はできなくても、子どもたちが喜んでほしい」と話した。

美由紀さんは、芽依ちゃんの遺影に、協会の新しい取り組みを報告している。「子どもが笑顔を広げられる機会が増えるのが立ってほしい。クラウンが大好きな芽依ちゃんに代わって、きょうしつ、お母さんと一緒にハーモニカを吹いて見守りたい」（美由紀さん）

朝日新聞（夕刊）2020年7月17日 承諾書番号(20-2735) ※朝日新聞社に無断で転載することを禁じる

ボランティア受け入れ指針を

聖路加国際大の小林京子教授（小児看護学）の話「子供がつかない治療に向き合うには、家族の支えや遊びなど、医療以外のサポートが必要。制限が長引く中、感染防止と、安心して子供らしく過ごせる環境作りの両方の視点が求められる。医療機関はオンラインを活用するほか、安全に外部のボランティアを受け入れるための指針作りなどに早急に取り組まなくてはならない」



2021年度6月30日 ありがとうを込めて クリニックラウントレーナー 川島由衣



難病の病児保育施設に絵を描いた。川崎市の病児保育施設に絵を描いた。川崎市の病児保育施設に絵を描いた。

天国に旅立ったら5歳から届いた「ありがとう」

病院道化師 決意の再開



「自分で着せませんが、その中で、4月中旬に道... 病院道化師 決意の再開



●山本芽依ちゃん(右下)の病室を訪れたクリニックラウン... 6月上旬、関西の病院に入院する子どもとインタ...

「自分で着せませんが、その中で、4月中旬に道... 病院道化師 決意の再開

MAINICHI 新毎日 夕刊 7月30日(木) 2020年(令和2年) 発行所：大阪市北区梅田3丁目4番5号

世界の中のアイディア MTTAINAI 世界の中のアイディア

被曝75年の6月6日午前11時... 放射線の影響は、人々の健康に...

人が、多様な不安を抱える。地元入りもゴルフも戻... 地元の現状が心配で、休...

きょうの紙面から 五輪延期 元日本代表引退 8 「新しい生活」続けるには 9

毎日数独 3705回-初級 1 7 9 8 7 2 3 3 5 8 7 9 6 2 1 8 2 1



毎日新聞(夕刊) 2020年7月30日

「2020年度を振り返って」

怒涛の2020年でしたが、これまで積み上げてきたつながりに助けられました。また、嬉しい事に新しいつながりからいろいろな学びを頂き、悩みながらも心を躍らせて進むことが出来ました。



2021年6月30日 クリニクラウンディレクター 石井裕子

人類はCOVID-19のパンデミックの教訓を今後どう生かすのか？



21世紀の人類が手にした輝かしい科学技術の進歩は、生命科学分野では難病の診断や治、療法の開発に寄与し、自然科学分野では深海探索や宇宙の果てまで、その研究対象は拡大されてきた。



2021年7月4日 日本クリニクラウン協会理事長 河 敬世

持続可能な開発目標(SDGs)と日本クリニクラウン協会の取組み



世界共通の目標「持続可能な開発目標(SDGs)」 SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない(leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。

日本クリニクラウン協会の取組みは、以下に該当します。

- 目標3 [すべての人に健康と福祉を] あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
目標4 [質の高い教育をみんなに] すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
目標17 [パートナーシップで目標を達成しよう] 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

「今を乗り越え、未来につなげる！」

クリニクラウンを待っている子どもたちや家族、病院スタッフがいます。そして、応援してくれている仲間がいるからこそ、コロナ禍を乗り越えていく勇気を持てたのだと思います。



2021年7月20日 事務局長 熊谷恵利子

2020年度 決算報告

●収支報告

<収入の部>

受取会費	2,433,000円
受取寄附金	43,813,486円
受取民間助成金	4,838,666円
受取公的補助金	3,018,400円
自主事業収入	1,494,914円
委託事業収入	0円
その他収益	6,928円
経常収益計	55,605,394円

<支出の部>

事業費	19,422,901円
(うち人件費)	9,069,465円
管理費	7,458,428円
(うち人件費)	5,255,860円
経常費用計	26,881,329円
当期経常増減額	28,724,065円
当期正味財産増減額	28,724,065円
前期繰越正味財産額	28,811,319円
次期繰越正味財産額	57,535,384円

●貸借対照表

<資産の部>

流動資産合計	21,667,887円
固定資産合計	40,267,134円
資産合計	61,935,021円

<負債及び正味財産の部>

流動負債合計	4,399,637円
固定負債合計	0円
負債合計	4,399,637円
正味財産合計	57,535,384円
負債及び正味財産合計	61,935,021円



団体名

認定NPO法人 日本クリニックラウン協会
(ニンテイエヌピーオーホウジン ニホンクリニックラウンキョウカイ)
(英語表記: Certified Nonprofit Organization Japan CliniClowns Association)

設立年月日

2005年4月

法人設立年月日

特定非営利活動法人内閣府認証取得2005年9月30日(認証を受ける)

登記完了 法人設立

2005年10月19日(法人設立登記年月日)

認定NPO法人の取得

2016年11月29日(認定NPO法人に認定)



団体の目的

この法人は、闘病生活を送るこどもの権利を尊重し、クリニックラウン(臨床道化師)に関する事業を行うことにより、もってこどもの健全育成、保健、医療または福祉の発展に寄与することを目的とする。(定款記載)

主な活動内容

- クリニックラウンの養成
こどもたちの想像力を引き出し、主体性を育むクリニックラウンの養成・認定・研修を行います。
- クリニックラウンの派遣
入院しているこどもたちのいる病院へクリニックラウンの派遣をします。入院しているこどもがこども本来の生きる力を取り戻し笑顔になる環境を創るための活動を行います。
- 啓発・ネットワーク活動
クリニックラウンの活動を知ってもらうため、講演会やワークショップ、活動報告会などをおこなっています。
- クリニックラウンWeb事業
Webを活用し、感染のリスクなく「こども時間」ととけていきます。

設立経緯

2004年、オランダ総領事館文化プログラムとしてクリニックラウンオランダ財団(以下CCNL)の活動が日本に初めて紹介され、実際にオランダのクリニックラウンが病院を訪問しました。それを体感した医師、看護師、家族会の有志や道化師が、「この活動を日本にも」と動き出し、CCNLと提携して日本クリニックラウン協会を任意団体として設立しました。「すべてのこどもにこども時間を」を合言葉に、小児病棟へ赤い鼻がトレードマークのクリニックラウン(臨床道化師)を定期的に派遣し、入院中のこどもがこどもらしく過ごせる「こども時間」を届けています。そして、クリニックラウンならではの、遊びやコミュニケーションを通じて、こどもの成長や発達を支えるために2005年から活動しています。「すべてのこどもがこどもらしく過ごせる社会」そして「だれもが笑顔になれる社会」を目指して活動しています。

ご寄付に対する寄付金控除について

当協会は寄付金控除などが受けられる「認定NPO法人」です。(2016年11月29日に大阪市から認定されました。)
「認定NPO法人」とは「運営組織や事業活動が適正」で「より高い公益性をもっていること」など一定の要件を満たし、所轄庁の認定を受けた法人です。

個人によるご寄付

所得税

確定申告することによって①または②いずれか有利な方の控除をうけることができます。

※①の場合「認定NPO法人等寄付金特別控除額の計算明細書」が必要です。国税庁のホームページよりダウンロードできます。

①認定NPO法人等寄付金特別控除(税額控除)

次の算式により計算した金額(その年の所得税額の25%相当額を限度)その年の所得税額から控除できます。

$$\frac{\text{その年に支出した認定NPO法人などに対する寄付金額の合計額}}{2000} \times 40\% = \text{認定NPO法人等寄付金特別控除額}$$

(注1) 認定NPO法人等寄付金の額の合計は、その年の総所得金額等の40%相当額が限度です。

②寄付金控除(所得税控除)

次の算式により掲載した金額をその年の総所得金額から控除できます。

$$\text{その年に支出した特定寄付金金額の合計額} - 2000 = \text{寄付金控除額}$$

(注2) 特定寄付金金額の合計額は、その年の総所得金額などの40%相当が限度です。

住民税

大阪市、大阪府にお住まいの方は、個人住民税の税額控除を受けることができます。(大阪市及び大阪府から税額控除対象寄付金に指定されています。)

法人によるご寄付

当協会への寄付金は、一般寄付金の損算入限度額とは別に、ほかの特定公益増進法人などに対する寄付金額と合わせて、特別損算入限度額の範囲で損算入が認められます。(注3) 損算入限度額は法人の区分に応じて算式がかわります

詳しくはお近くの税務署または市町村にお問い合わせください。

例 5万円の寄付の場合(所得税率20%を想定)

①認定NPO法人等寄付金特別控除を選んだ場合の減税額
(50,000円 - 2,000円) × 40% = 19,200円

所得税からそのまま控除されます

②寄付金控除を選んだ場合の減税額
50,000円 - 2,000円 = 48,000円
48,000円 × 所得税率(20%) = 9600円相当

役員 (2020年3月末時点)

理事長 河 敬世

大阪府立母子保健総合医療センター 顧問<血液腫瘍科>

副理事長 連 利博

日本赤十字社近畿ブロック血液センターセミナー専任講師

理事 森下 左文

鹿児島大学医学部小児外科 客員教授

理事 大川 洋二

霧島市立医師会医療センター 小児外科

理事 ヨルン・ボクホベン

公益財団法人がんと子どもを守る会 理事

理事 上吹越 美枝

公益財団法人がんと子どもを守る会 関西支部代表幹事

理事 石井 裕子

医療法人社団O C F C会大川こども内科クリニック 理事長

理事 井上 哲浩

一般社団法人全国病児保育協議会 会長

理事 林 富

オランダ王国大使館 オランダ経済・気象政策省 企業誘致局駐日代表

理事 小田 慈

オランダ王国大使館 オランダ経済・気象政策省 企業誘致局駐日代表

理事 西山 裕子

新見公立大学副学長/岡山大学名誉教授/小児科医

監事 加藤 仁義

高槻市医師会 看護専門学校 講師

監事 榎本 靖代

株式会社加藤活文堂 代表取締役

スタッフ

事務局長 熊谷 恵利子

熊谷 恵利子

事務局長補佐 高月 和光

高月 和光

事務局スタッフ 川島 由衣

川島 由衣

事務局スタッフ 石井 泰雄

石井 泰雄

事務局スタッフ 伊佐 常和

伊佐 常和

事務局スタッフ 林 優里

林 優里

クリニックラウントレーナー 石井 裕子

石井 裕子

クリニックラウン 34名

ボランティアリーダー 4名(うち1名活動休止)

ライターボランティア 4名

ボランティア登録者 23名

クリニックラウンからのメッセージ動画



ご寄附のお願い

クリニックラウンの活動は多くの皆様からの寄附に支えていただいています
入院中のこども入院中のこどもたちや家族が笑顔になれる「こども時間」を
たくさん届けていくために、ご協力をお願いします

郵便払込口座番号: 00920-3-118693

加入者名: 特定非営利活動法人 日本クリニックラウン協会

応援ありがとうございます!
これからも入院中のこどもたちを応援する仲間になってください!

※当協会のホームページからクレジットカードでの寄附ができます。

※振込確認後、領収書を発行いたします。発行日は振込いただきました翌月の上旬を予定しています。

※お早目に必要でございましたら事務局までご連絡ください。